

3 各論（具体的な留意事項）

2) 細菌性赤痢

【参考】Response に関すること

- ✓ 国内感染事例では、感染原因を特定し拡大を防止することが重要です。広域散発事例の一端の可能性もあるので、他の患者または無症状病原体保有者の有無、家族や友人の渡航歴の有無、外食の有無（店名）、輸入食品喫食の有無、購入店舗、食品残品等の検査実施状況などを把握します。
- ✓ 赤痢菌は、腸管出血性大腸菌と同様に微量の菌によって感染が成立するため感染拡大しやすいので、食中毒事例だけでなく、家庭内、施設内（精神障害者施設、保育園など）での二次感染による感染伝播にも注意が必要です。
- ✓ 国内感染例は、IDSC から調査票（Annex2-2）と国立感染症研究所への菌株の提供依頼があります（赤痢菌等の菌株の送付について 平成 20 年 10 月 9 日 健感発第 1009001 号 食安監発第 1009002 号）。これは広域散発事例の発生を探知し、拡大防止につなげることを目的としたものです。
- ✓ 国外感染例でも特定の感染地域で複数の感染者が探知された場合等に、行程、喫食内容、行動等の疫学情報と菌株の提供依頼が IDSC からあります。

診断方法

- ・ 菌種が *S. dysenteriae*、*S. boydii* である場合は、しばしば誤同定であることが報告されています（IASR Vol.26 No4-p94-96,2005）。これらの報告があった場合には地方衛生研究所（もしくは国立感染症研究所）で検査確認することが勧められます。

感染原因・ 感染経路

- （経口感染）
- ・ 届出時には不明であっても、他の患者または無症状病原体保有者の有無、外食の有無（店名）、輸入食品喫食の有無、購入店舗、食品残品等の検査実施状況などの結果に基づき入力します。

感染地域

- ・ 潜伏期間（1-5 日、通常 1-3 日）内の海外居住歴・渡航もしくは国内旅行歴の有無を確認します。感染地域の欄に入力し、その滞在期間は備考欄に入力します。
- ・ 同行者の状況（感染・発病の有無）を確認し、備考欄に入力します。

3) 腸管出血性大腸菌感染症

【参考】Response に関すること

- ✓ 関連する患者または無症状病原体保有者の有無、食品残品等の検査実施状況などを把握します。
- ✓ 微量の菌によって感染が成立するため感染拡大しやすいので、食中毒事例だけでなく、家庭内、施設内（特に保育園など）での二次感染による感染伝播にも注意が必要です。
- ✓ HUS（溶血性尿毒症症候群）発症例(Annex2-5)、死亡例、集団発生事例については、今後の対策立案に必要な危険因子に関する追加情報収集のため、IDSC から問い合わせがあります。収集された情報は IDWR（感染症週報）や IASR（病原微生物検出情報）等でまとめられます。
- ✓ 国内感染事例で、同一の O 血清群 VT 型の菌が複数の地域で認められた場合（広域散発の疑いのあるとき）等に、IDSC から喫食内容、行動等の疫学情報と菌株の提供を依頼されることがあります。
- ✓ 国外感染例でも、特定の感染地域での複数の感染者が探知された場合等に、IDSC から、行程、喫食内容、行動等の疫学情報と菌株の提供依頼があります。

症状

- ・ 溶血性貧血や急性腎不全の記載があり、HUS の記載がない場合には、医師に HUS 発症の有無を確認します。また、検体提出時に、検体とともに医師から提出される「検査票」の臨床症状・徴候等の欄に HUS と記載されていても、患者の届出票には HUS の記載（入力）がない症例が少なからず認められています。届出後に HUS の発症が確認された場合、症状欄に追加入力します。

診断方法

- ・ O 血清群と VT の型の記載がない場合には届出医に確認し、不明の場合には不明と入力します。医療機関で型別検査が実施されていない場合には、可能な限り菌株を確保し、地方衛生研究所（もしくは国立感染症研究所）で実施し、その結果を入力します。実施できない場合は、備考欄に「型別検査の実施なし」と入力します。
- ・ O 抗原凝集抗体の検出による診断の場合には、O 血清群の型を確認し、備考欄に入力します。

VT1 と VT2 の両方が検出された菌の入力方法

- ・ 「VT1」「VT2」のふたつではなく、「VT1VT2」ひとつをチェックします。

複数の菌が検出された場合の入力方法

1) O 血清群が同じで VT 型が 2 種類

O 血清群の「O（入力値）」の欄に「O（数字）」を入力し（例：157）、ペロ毒素の欄はチェックせず、「その他の方法（入力値）」に O 血清群とともに入力します（例：O157VT1VT2 と O157VT2）。

2) O 血清群が異なる 2 種類

O 血清群の「O（入力値）」の欄に「O（数字）」を 2 つ入力し（例：26 と 157）、ペロ毒素の欄はチェックせず、「その他の方法（入力値）」に O 血清群とともに入力します（例：O26VT1 と O157VT2）。

感染原因・
感染経路

（経口感染）

- ・ 届出時には不明であっても、他の患者または無症状病原体保有者の有無、外食の有無（店名）、輸入食品喫食の有無、購入店舗、食品残品等の検査実施状況などの結果に基づき入力します。

4) 腸チフス

【参考】Response に関すること

- ✓ 国内感染事例では、感染原因を特定し拡大を防止することが重要です。他の患者または無症状病原体保有者の有無、家族や友人の渡航歴の有無、外食の有無（店名）、輸入食品喫食の有無、購入店舗、食品残品等の検査実施状況などを把握します。
- ✓ 国内感染例は、IDSC から調査票（Annex2-3）が送付されます。
- ✓ 耐性菌の動向監視を目的とした薬剤感受性検査とフェージ型別検査の実施のために、国立感染症研究所への菌株の提供依頼があります（腸チフス対策の推進について 昭和 41 年 11 月 16 日 衛発第 788 号、赤痢菌等の菌株の送付について 平成 20 年 10 月 9 日 健感発第 1009001 号 食安監発第 1009002 号）。結果は隔月で IASR に掲載されます。
- ✓ 国外感染例でも特定の感染地域で複数の感染者が探知された場合等に、行程、喫食内容、行動等の疫学情報と菌株の提供依頼が IDSC からあります。

診断方法

- ・ 感染研で実施したフェージ型別検査の結果が判明したら、追加入力します。

感染地域

- ・ 潜伏期間（7-14 日）内の海外居住歴・渡航もしくは国内旅行歴の有無を確認します。感染地域の欄に入力し、その滞在期間は備考欄に入力します。
- ・ 同行者の状況（感染・発病の有無）を確認し、備考欄に入力します。

3 各論（具体的な留意事項）

5) パラチフス

【参考】Response に関すること

- ✓ 国内感染事例では、感染原因を特定し拡大を防止することが重要です。他の患者または無症状病原体保有者の有無、家族や友人の渡航歴の有無、外食の有無（店名）、輸入食品喫食の有無、購入店舗、食品残品等の検査実施状況などを把握します。
- ✓ 国内感染事例は IDSC から調査票（Annex2-3）が送付されます。
- ✓ 耐性菌の動向監視を目的とした薬剤感受性検査とファージ型別検査の実施のために、国立感染症研究所への菌株の提供依頼があります（腸チフス対策の推進について 昭和 41 年 11 月 16 日 衛発第 788 号、赤痢菌等の菌株の送付について 平成 20 年 10 月 9 日 健感発第 1009001 号 食安監発第 1009002 号）。結果は隔月で IASR に掲載されます。
- ✓ 国外感染例でも特定の感染地域で複数の感染者が探知された場合等に、行程、喫食内容、行動等の疫学情報と菌株の提供依頼が IDSC からあります。

診断方法

- ・ 感染研で実施したファージ型別検査の結果が判明したら、追加入力します。

感染地域

- ・ 潜伏期間（7-14 日）内の海外居住歴・渡航もしくは国内旅行歴の有無を確認します。感染地域の欄に入力し、その滞在期間は備考欄に入力します。
- ・ 同行者の状況（感染・発病の有無）を確認し、備考欄に入力します。

3.4. 四類感染症

1) E 型肝炎

【参考】Response に関すること

- ✓ 感染原因・感染経路を確認し、経口感染（特に肉類喫食）の有無を確認します。イノシンなど狩猟肉による場合は（狩猟時期は一般に 11-2 月）は、仲間で喫食している、冷凍保存されていることがあります。このため、複数の患者が発生したり、冷凍した肉を食する時期によっては、同一の肉でも違う時期に発症する場合があります。
- ✓ 遺伝子型は、日本では G3 および G4 が、途上国では G1 が多いとされています。G2 の流行は近年確認されていません。

診断方法

- ・ 遺伝子型が届出後に判明した場合には、結果を追加入力します。

感染原因・ 感染経路

- （経口感染）
- ・ 肉類の場合には、動物種、部位〔肉、肝臓（レバー）、腸（ホルモン）、その他の内臓〕、生食か加熱食か、を確認し、入力します。
- ・ シカ肉は、日本国内の感染事例での報告例があるものの、実際には鹿の抗体保有率は低いという研究報告があります。可能な限り当該シカ肉を確保し、地方衛生研究所（もしくは国立感染症研究所）で検査を行うことが勧められます。
- （輸血、血液製剤）
- ・ 種類、投与時期（年月日）を含め状況を確認し、追加項目があれば入力します。必要に応じて薬務担当課へ情報提供します。

感染地域

- ・ 潜伏期間（3-8 週間）内の海外居住歴・渡航もしくは国内旅行歴の有無を確認します。感染地域の欄に入力し、その滞在期間は備考欄に入力します。
- ・ 同行者の状況（感染・発病の有無）を確認し、備考欄に入力します。

2) ウエストナイル熱

病型	<ul style="list-style-type: none"> 5 類感染症の「急性脳炎」には本症は含みませんので、脳炎が認められる場合も、ウエストナイル熱として届出します。
診断方法	<ul style="list-style-type: none"> 血清診断（IgM 抗体の検出、ペア血清での中和抗体の検出）は、日本脳炎血清型群に属するウイルス間で交差反応する可能性があるため、日本脳炎ウイルスに対する抗体価よりも高値であることを確認する必要があります。 地方衛生研究所（もしくは国立感染症研究所）での検査の実施を検討します。
感染原因・感染経路	<p>（動物・蚊・昆虫等からの感染）</p> <ul style="list-style-type: none"> 蚊の刺咬歴（時期と場所）を確認します。 <p>（輸血、血液製剤）</p> <ul style="list-style-type: none"> 種類、投与時期（年月日）を含め状況を確認し、追加項目があれば入力します。必要に応じて薬務担当課へ情報提供します。
感染地域	<ul style="list-style-type: none"> 媒介蚊は日本にも生息しています。 感染地域が国外であることを確認するために、潜伏期間（2-14 日）内の海外居住歴・渡航歴があることを確認します。感染地域の項目に入力し、その滞在期間は備考欄に入力します。 同行者の状況（感染・発病の有無）を確認し、備考欄に入力します。

3) A 型肝炎

【参考】Response に関すること

- ✓ 食中毒の可能性があるため、他の患者または無症状病原体保有者の有無を確認します。
- ✓ 時に集団発生がみられているので、家族・同一施設利用者など何らかのつながりのある 2 例以上の患者発生には特に調査が必要です。
- ✓ 広域散发事例が疑われる場合は、IDSC から疫学情報（Annex3）と国立感染症研究所へのウイルスの遺伝子配列情報や検体の提供依頼があります。広域散发事例の発生を確認し、拡大防止につなげることを目的としたものです。全国から収集された遺伝子配列情報は、適宜、食中毒調査支援システム（NESFD: National Epidemiological Surveillance of Foodborne Disease）上に公開されます。
- ✓ まれに性的接触による集団発生も報告されています。
- ✓ 患者のウイルス排泄期間が長い（発病前 3-4 週間から発病後数ヶ月間）ので、同居者などへの二次感染の注意喚起が必要です。

感染原因・感染経路	<p>（経口感染）</p> <ul style="list-style-type: none"> 飲食物の内容を確認します。海産物（牡蠣、すし屋等での飲食）が原因の可能性がないかを確認します。
感染地域	<ul style="list-style-type: none"> 潜伏期間（平均 4 週間）内の海外居住歴・渡航もしくは国内旅行歴の有無を確認します。感染地域の欄に入力し、その滞在期間は備考欄に入力します。 ワクチン接種歴（接種回数と時期）を確認し、備考欄に入力します。 同行者の状況（感染・発病の有無）を確認し、備考欄に入力します。

4) エキノコックス症

病型	<ul style="list-style-type: none"> 多包条虫と単包条虫は、分布している地域が異なるので感染地域を確認します。
----	--

3 各論（具体的な留意事項）

診断方法	<ul style="list-style-type: none"> 「ELISA 法による血清抗体の検出」「Western Blot 法による血清抗体の検出」のみで、症状なしの場合には、過去の既往を示しているだけのことがあるので、念のため画像上の異常所見の有無を確認します（画像上の異常所見があれば、「患者」とします）。
感染地域	<ul style="list-style-type: none"> 日本国内では、2010年6月現在において北海道に多包条虫が存在するのみです。北海道以外が記載（入力）されている場合には間違いがないか確認します。感染地域が北海道の場合、居住歴もしくは旅行歴があることを確認します。単包条虫の記載の場合には、海外居住歴・渡航歴があることを確認します。推定感染地域は感染地域の欄に入力し、その滞在期間は備考欄に入力します。

5) 黄熱

診断方法	<ul style="list-style-type: none"> 診断のための検査（医師から本疾患が疑われる患者の検査に関する問い合わせがあった場合は、地方衛生研究所（もしくは国立感染症研究所）での検査の実施を検討します）。
感染原因・ 感染経路	<p>（動物・蚊・昆虫等からの感染）</p> <ul style="list-style-type: none"> 蚊の刺咬歴（時期と場所）を確認します。
感染地域	<ul style="list-style-type: none"> 感染地域が国外であることを確認するために、潜伏期間（3-6 日）内の海外居住歴・渡航歴の有無を確認します。感染地域の欄に入力し、その滞在期間は備考欄に入力します。 居住・渡航先が流行地（南米、アフリカ・サハラ砂漠以南）であることを確認します。 ワクチン接種歴（接種回数と時期）を確認し、備考欄に入力します。 同行者の状況（感染・発病の有無）を確認し、備考欄に入力します。

6) オウム病

【参考】Response に関すること

- ✓ 感染原因が不明である場合、鳥との接触（飼育の有無や展示施設への訪問など）の有無を確認します。
- ✓ ペットの鳥が感染原因と記載されている場合、鳥の状態（死亡の有無）、購入時期、購入間もない場合には、購入店の他の鳥の健康状態・店員の健康状況なども確認が必要です。特に輸入鳥の場合には、広範な地域で販売されることがあり、広域散発の集団発生の可能性もあるので注意が必要です。
- ✓ 特に大勢が曝露される鳥（ペットショップ、動物園などの鳥）が感染原因として記載されている場合、集団発生の可能性があるため注意が必要です。
- ✓ 感染源と推定される鳥の病原体検査を地方衛生研究所（もしくは国立感染症研究所）で実施することを考慮します。

診断方法	<ul style="list-style-type: none"> その他の方法で、補体結合反応（CF 法）のみが記載してある場合は届け出基準を満たしません（CF 法は、肺炎クラミジア（クラミジア肺炎）と交差反応があるため、鑑別ができない）。この場合、検体を医療機関から提供してもらい、地方衛生研究所（もしくは国立感染症研究所）での検査実施を検討します。
感染原因・ 感染経路	<p>（動物・蚊・昆虫等からの感染）</p> <ul style="list-style-type: none"> 家族等での発症者がいないかを確認します。 鳥と記載されている場合、具体的な種類（セキセイインコ、オウム、九官鳥、ハトなど）を確認します。

7) オムスク出血熱	
診断方法	<ul style="list-style-type: none"> 診断のための検査（医師から本疾患が疑われる患者の検査に関する問い合わせがあった場合）は、国立感染症研究所に連絡します。
8) 回帰熱	
診断方法	<ul style="list-style-type: none"> 診断のための検査（医師から本疾患が疑われる患者の検査に関する問い合わせがあった場合）は、国立感染症研究所に連絡します。
9) キャサヌル森林熱	
診断方法	<ul style="list-style-type: none"> 診断のための検査（医師から本疾患が疑われる患者の検査に関する問い合わせがあった場合）は、国立感染症研究所に連絡します。
10) Q 熱	
診断方法	<ul style="list-style-type: none"> 検査可能機関が少なく（国立感染症研究所、一部の地方衛生研究所、大学）、検査精度の確認が必要なため検査機関を確認します。（備考欄に検査機関名を入力しておきます。） 地方衛生研究所や国立感染症研究所以外で検査が実施されている場合には、念のためいずれかでの確認検査を追加実施することが勧められます。
感染原因・感染経路	<ul style="list-style-type: none"> 動物との接触状況を確認します。本症の病原体は、ウシ、ヒツジ、ネコなどの出産後の胎盤に多いとされます。
11) 狂犬病	
診断方法	<ul style="list-style-type: none"> 診断のための検査（医師から本疾患が疑われる患者の検査に関する問い合わせがあった場合）は、国立感染症研究所に連絡します。
感染原因・感染経路	<ul style="list-style-type: none"> 動物との接触歴（時期と場所）を確認します。
感染地域	<ul style="list-style-type: none"> 感染地域が国外であることを確認するために、潜伏期間（20-90 日）内の海外居住歴・渡航歴の有無を確認します。感染地域の欄に入力し、その滞在期間は備考欄に入力します。 ワクチン接種歴（接種回数と時期）を確認し、備考欄に入力します。 同行者の状況（感染・発病の有無）を確認し、備考欄に入力します。
12) コクシジオイデス症	
診断方法	<ul style="list-style-type: none"> 診断のための検査（医師から本疾患が疑われる患者の検査に関する問い合わせがあった場合）は、国立感染症研究所に連絡します。
感染地域	<ul style="list-style-type: none"> 感染地域が国外であることを確認するために、潜伏期間（1-4 日）内の海外居住歴・渡航歴の有無を確認します。感染地域の欄に入力し、その滞在期間は備考欄に入力します。 居住・渡航先が流行地（カリフォルニア州・テキサス州・アリゾナ州などの米国西南部の乾燥地域、メキシコ太平洋岸など）であることを確認します。 同行者の状況（感染・発病の有無）を確認し、備考欄に入力します。 国内感染では実験室内感染の報告がありました。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 検査室での感染事故が世界各地で報告されているため、一般病院では不用意に培養をしてはならないとされています。

3 各論（具体的な留意事項）

13) サル痘	
診断方法	<ul style="list-style-type: none"> 診断のための検査（医師から本疾患が疑われる患者の検査に関する問い合わせがあった場合）は、国立感染症研究所に連絡します。
感染原因・感染経路	<ul style="list-style-type: none"> 動物との接触歴（時期と場所）を確認します。
感染地域	<ul style="list-style-type: none"> 感染地域が国外であることを確認するために、潜伏期間（7-21日）内の海外居住歴・渡航歴の有無を確認します。感染地域の欄に入力し、その滞在期間は備考欄に入力します。 同行者の状況（感染・発病の有無）を確認し、備考欄に入力します。
14) 腎症候性出血熱	
診断方法	<ul style="list-style-type: none"> 診断のための検査（医師から本疾患が疑われる患者の検査に関する問い合わせがあった場合）は、国立感染症研究所に連絡します。
感染原因・感染経路	<ul style="list-style-type: none"> 動物との接触歴（時期と場所）を確認します。
感染地域	<ul style="list-style-type: none"> 感染地域が国外であることを確認するために、潜伏期間（2-6日）内の海外居住歴・渡航歴の有無を確認します。感染地域の欄に入力し、その滞在期間は備考欄に入力します。 同行者の状況（感染・発病の有無）を確認し、備考欄に入力します。
15) 西部ウマ脳炎	
診断方法	<ul style="list-style-type: none"> 診断のための検査（医師から本疾患が疑われる患者の検査に関する問い合わせがあった場合）は、国立感染症研究所に連絡します。
感染原因・感染経路	<p>（動物・蚊・昆虫等からの感染）</p> <ul style="list-style-type: none"> 蚊の刺咬歴（時期と場所）を確認します。
感染地域	<ul style="list-style-type: none"> 感染地域が国外であることを確認するために、潜伏期間（5-10日）内の海外居住歴・渡航歴の有無を確認します。感染地域の欄に入力し、その滞在期間は備考欄に入力します。 居住・渡航先が流行地（北アメリカのミシシッピ川流域から西海岸にかけて、および、カナダ・南アメリカに分布）であることを確認します。 同行者の状況（感染・発病の有無）を確認し、備考欄に入力します。
16) ダニ媒介脳炎	
診断方法	<ul style="list-style-type: none"> 診断のための検査（医師から本疾患が疑われる患者の検査に関する問い合わせがあった場合）は、国立感染症研究所に連絡します。
感染原因・感染経路	<ul style="list-style-type: none"> 動物との接触歴（時期と場所）や、ヤギの乳製品の摂取の有無を確認します。
感染地域	<ul style="list-style-type: none"> 感染地域が国外であることを確認するために、潜伏期間（7-14日）内の海外居住歴・渡航歴の有無を確認します。感染地域の欄に入力し、その滞在期間は備考欄に入力します。 居住・渡航先が流行地（ロシアなどのヨーロッパ諸国に分布）であることを確認します。 同行者の状況（感染・発病の有無）を確認し、備考欄に入力します。

17) 炭疽

【参考】Response に関すること

- ✓ 生物兵器として使用される可能性もあるので、集団感染の有無を確認します。

診断方法

- ・ 診断のための検査（医師から本疾患が疑われる患者の検査に関する問い合わせがあった場合は、地方衛生研究所（もしくは国立感染症研究所）での検査の実施を検討します。

感染原因・
感染経路

- ・ 動物との接触歴（時期と場所）や、職歴（皮の加工業など）を確認します。

感染地域

- ・ 感染地域が国外であることを確認するために、潜伏期間（1-7 日）内の海外居住歴・渡航歴の有無を確認します。感染地域の欄に入力し、その滞在期間は備考欄に入力します。
- ・ 同行者の状況（感染・発病の有無）を確認し、備考欄に入力します。

18) つつが虫病

【参考】Response に関すること

- ✓ 感染地域付近の住民に対して患者発生や感染地域について情報提供すると共に、推定感染地域が他地域からも訪問者が多い場合（観光地や山菜狩りの有名なポイントなど）は広く医療機関へ患者発生や感染地域について情報提供します。

感染地域

- ・ 潜伏期間（5-14 日）を考慮し、発症前 3 週間程度の農作業や山菜取りなどの行動歴（時期と場所）を確認します。推定感染地域は感染地域の欄に入力し、その滞在期間は備考欄に入力します。
- ・ 同行者の状況（感染・発病の有無）を確認し、備考欄に入力します。
- ・ できるだけ市区町村まで確認し記載します。

19) デング熱

病型

- ・ 病型がデング出血熱の場合、届出基準を満たすか、症状を確認します。満たさない場合は、症状や検査所見について届出医に問い合わせます。また逆に、出血熱ではなく、デング熱として届け出られたものであって、出血熱に該当するものも見られているので、注意します。
- ・ デング出血熱は、異なるウイルス型（血清型）（デング熱ウイルスには 1~4 の 4 つの血清型がある）に再感染した場合に起こることが多いとされています。そのため、過去の罹患歴（罹患時期と感染したウイルス型）、流行地への渡航歴（期間と場所）・居住歴（期間と場所）を確認します。得られた情報は備考欄等に入力します。

診断方法

- ・ 血清型は必須届出事項ではありませんが、実施されていても結果が遅れていることもあるので、届出医に実施の有無と結果を確認します。血清型検査が実施されていない場合には、できるだけ届出医に検体提供を依頼し、地方衛生研究所（もしくは国立感染症研究所）で検査を実施することを検討します。

感染原因・
感染経路

（動物・蚊・昆虫等からの感染）

- ・ 蚊の刺咬歴（時期と場所）を確認します。

3 各論（具体的な留意事項）

感染地域	<ul style="list-style-type: none"> ・ デング熱ウイルスを媒介するヒトスジシマカは日本にも生息しています。 ・ 感染地域が国外であることを確認するために、潜伏期間（2-15日）内の海外居住歴・渡航歴の有無を確認します。感染地域の欄に入力し、その滞在期間は備考欄に入力します。 ・ 同行者の状況（感染・発病の有無）をできれば確認し、備考欄に入力します。
------	---

20) 東部ウマ脳炎

診断方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 診断のための検査（医師から本疾患が疑われる患者の検査に関する問い合わせがあった場合）は、国立感染症研究所に連絡します。
感染原因・ 感染経路	<p>（動物・蚊・昆虫等からの感染）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 蚊の刺咬歴（時期と場所）を確認します。
感染地域	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染地域が国外であることを確認するために、潜伏期間（3-10日）内の海外居住歴・渡航歴の有無を確認します。感染地域の欄に入力し、その滞在期間は備考欄に入力します。 ・ 居住・渡航先が流行地（北アメリカ東部に分布、また、カナダ・中南米・カリブ海などにも分布）であることを確認します。 ・ 同行者の状況（感染・発病の有無）を確認し、備考欄に入力します。

21) 鳥インフルエンザ（鳥インフルエンザ（H5N1）を除く）

診断方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分離・検出されたウイルスの亜型を確認します。 ・ 地方衛生研究所や国立感染症研究所以外で実施されている場合には、念のためいずれかでの確認検査を追加実施することが勧められます。
感染原因・ 感染経路	<ul style="list-style-type: none"> ・ 確定患者や鳥との接触歴（時期と場所）を確認します。 ・ 症例に関連した鳥類の鳥インフルエンザなどの情報があれば、備考欄に入力します。
感染地域	<ul style="list-style-type: none"> ・ 潜伏期間（H5、H7 亜型ウイルスの感染例では通常のインフルエンザと同じく1-3日と考えられている）内の海外居住歴・渡航もしくは国内旅行歴の有無を確認します。感染地域の欄に入力し、その滞在期間は備考欄に入力します。 ・ 同行者の状況（感染・発病の有無）を確認し、備考欄に入力します。

22) ニパウイルス感染症

診断方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 診断のための検査（医師から本疾患が疑われる患者の検査に関する問い合わせがあった場合）は、国立感染症研究所に連絡します。
感染原因・ 感染経路	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブタやコウモリなどの動物との接触歴（時期と場所）を確認します。 ・ ヒト-ヒト感染での集団発生の報告もあります。
感染地域	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染地域が国外であることを確認するために、潜伏期間（4-18日）内の海外居住歴・渡航歴の有無を確認します。推定感染地域は感染地域の欄に入力し、その滞在期間は備考欄に入力します。 ・ 居住・渡航先が流行地（主に東南アジア）であることを確認します。 ・ 同行者の状況（感染・発病の有無）を確認し、備考欄に入力します。

23) 日本紅斑熱

【参考】Response に関すること

- ✓ 時に重症化し死亡することがある疾患です。
- ✓ 感染地域付近の住民に対して患者発生や感染地域について情報提供すると共に、推定感染地域が他地域からも訪問者が多い場合（観光地や山菜狩りの有名なポイントなど）は広く医療機関へ患者発生や感染地域について情報提供します。

感染地域

- ・ 潜伏期間（2-8日）を考慮し、発症前2週間程度の農作業や山菜取りなどの行動歴（時期と場所）を確認します。推定感染地域は感染地域の欄に、滞在期間は備考欄に入力します。
- ・ 同行者の状況（感染・発病の有無）を確認し、備考欄に入力します。
- ・ できるだけ市区町村まで確認し記載します。

24) 日本脳炎

診断方法

- ・ 地方衛生研究所や国立感染症研究所以外で検査実施されている場合には、念のため地方衛生研究所（もしくは国立感染症研究所）での確認検査を追加実施することが勧められます。
- ・ 海外で感染したと疑われる症例の場合には、赤血球凝集阻止抗体の検出以外の検査診断がなされているかを確認します（デング熱ウイルスのようなフラビウイルスと交差反応を起こしうるため）。

感染原因・
感染経路

- （動物・蚊・昆虫等からの感染）
- ・ 蚊の刺咬歴（時期と場所）を確認します。

感染地域

- ・ 感染地域の環境（養豚場の有無、水田の有無）などを確認します。
- ・ 潜伏期間（1-2週間）内の海外居住歴・渡航もしくは国内旅行歴の有無を確認します。感染地域の欄に入力し、その滞在期間は備考欄に入力します。
- ・ 同行者の状況（感染・発病の有無）を確認し、備考欄に入力します。

その他

- ・ 予防接種歴（接種時期）を確認します（北海道では、定期予防接種としては実施されていません）。
- ・ 抗体価に影響を及ぼしている可能性があるため、治療におけるガンマグロブリン投与の有無を確認します。投与有りの場合には、①投与製剤名・LOT番号、②投与時期と量、③血清抗体検査の採血日・方法・抗体価を確認し、備考欄に入力します。
- ・ 1-2ヵ月後を目安に転帰（後遺症の有無など）を確認し、備考欄に入力します。

25) ハンタウイルス肺症候群

診断方法

- ・ 診断のための検査（医師から本疾患が疑われる患者の検査に関する問い合わせがあった場合）は、国立感染症研究所に連絡します。

感染原因・
感染経路

- ・ ネズミとの接触歴（時期と場所）を確認します。

感染地域

- ・ 感染地域が国外であることを確認するために、潜伏期間（数日-6週間、通常約2週間）内の海外居住歴・渡航歴の有無を確認します。感染地域の欄に入力し、その滞在期間は備考欄に入力します。
- ・ 居住・渡航先が流行地（主に南北アメリカ）であることを確認します。
- ・ 同行者の状況（感染・発病の有無）を確認し、備考欄に入力します。

3 各論（具体的な留意事項）

26) B ウイルス病

診断方法	<ul style="list-style-type: none">・ 診断のための検査（医師から本疾患が疑われる患者の検査に関する問い合わせがあった場合）は、国立感染症研究所に連絡します。
感染原因・ 感染経路	<ul style="list-style-type: none">（動物・蚊・昆虫等からの感染）・ サルとの接触歴（時期と場所）を確認します。
感染地域	<ul style="list-style-type: none">・ 潜伏期間（早い場合 2 日、通常 2-5 週間）内の海外居住歴・渡航もしくは国内旅行歴の有無を確認します。感染地域の欄に入力し、その滞在期間は備考欄に入力します。・ 同行者の状況（感染・発病の有無）を確認し、備考欄に入力します。

27) 鼻疽

診断方法	<ul style="list-style-type: none">・ 診断のための検査（医師から本疾患が疑われる患者の検査に関する問い合わせがあった場合）は、地方衛生研究所（もしくは国立感染症研究所）に連絡します。
感染原因・ 感染経路	<ul style="list-style-type: none">（動物・蚊・昆虫等からの感染）・ ウマ・ロバなどとの接触歴（時期と場所）を確認します。
感染地域	<ul style="list-style-type: none">・ 感染地域が国外であることを確認するために、潜伏期間（通常 1-14 日）内の海外居住歴・渡航歴の有無を確認します。感染地域の欄に入力し、その滞在期間は備考欄に入力します。・ 居住・渡航先が流行地（特に中国、中東）であることを確認します。・ 同行者の状況（感染・発病の有無）を確認し、備考欄に入力します。

28) ブルセラ症

診断方法	<ul style="list-style-type: none">・ 菌種の記載がない場合、菌種を確認します。・ 試験管凝集試験による血清抗体検査では、<i>B.abortus</i> の場合に菌種の同定ができないので、国立感染症研究所に行政検査依頼することが勧められます。
感染原因・ 感染経路	<ul style="list-style-type: none">・ ヤギ・ウシ・ヒツジの生乳やチーズの喫食、動物と接触を確認します。・ 犬のブリーダーでの <i>B.canis</i> による集団発生（犬も含め）がありました。
感染地域	<ul style="list-style-type: none">・ 感染症法施行以降、菌種が <i>B.canis</i> 以外の報告は全て国外感染例です。・ 潜伏期間（通常 1-18 週）内の海外居住歴・渡航もしくは国内旅行歴の有無を確認します。感染地域の欄に入力し、その滞在期間は備考欄に入力します。・ 同行者の状況（感染・発病の有無）を確認し、備考欄に入力します。

29) ベネズエラウマ脳炎

診断方法	<ul style="list-style-type: none">・ 診断のための検査（医師から本疾患が疑われる患者の検査に関する問い合わせがあった場合）は、国立感染症研究所に連絡します。
感染原因・ 感染経路	<ul style="list-style-type: none">（動物・蚊・昆虫等からの感染）・ 蚊の刺咬歴（時期と場所）を確認します。
感染地域	<ul style="list-style-type: none">・ 感染地域が国外であることを確認するために、潜伏期間（2-5 日）内の海外居住歴・渡航歴の有無を確認します。感染地域の欄に入力し、その滞在期間は備考欄に入力します。・ 居住・渡航先が流行地（米国南部、中米に分布）であることを確認します。・ 同行者の状況（感染・発病の有無）を確認し、備考欄に入力します。

30) ヘンドラウイルス感染症

診断方法	診断のための検査（医師から本疾患が疑われる患者の検査に関する問い合わせがあった場合は、国立感染症研究所に連絡します。
感染原因・ 感染経路	（動物・蚊・昆虫等からの感染） <ul style="list-style-type: none"> ウマとの接触歴（時期と場所）を確認します。 ヒトーヒト感染での報告は2009年現在ありません。
感染地域	<ul style="list-style-type: none"> 感染地域が国外であることを確認するために、潜伏期間（5-14日）内の海外居住歴・渡航歴の有無を確認します。感染地域の欄に入力し、その滞在期間は備考欄に入力します。 居住・渡航先が流行地（オーストラリア）であることを確認します。 同行者の状況（感染・発病の有無）を確認し、備考欄に入力します。

31) 発しんチフス

診断方法	診断のための検査（医師から本疾患が疑われる患者の検査に関する問い合わせがあった場合は、国立感染症研究所に連絡します。
感染原因・ 感染経路	（動物・蚊・昆虫等からの感染） <ul style="list-style-type: none"> シラミの刺咬歴（時期と場所）を確認します。 ヒトーヒト感染での報告は2009年現在ありません。
感染地域	<ul style="list-style-type: none"> 感染地域が国外であることを確認するために、潜伏期間（1-2週間）内の海外居住歴・渡航歴の有無を確認します。感染地域の欄に入力し、その滞在期間は備考欄に入力します。 同行者の状況（感染・発病の有無）を確認し、備考欄に入力します。

32) ボツリヌス症

【参考】Response に関すること

- ✓ 治療に用いる抗毒素の入手方法：抗毒素血清が必要な場合には、厚生労働省血液対策課に問い合わせます。詳しくは、「予防接種に関する Q&A 集」（細菌製剤協会）を参照ください。（細菌製剤協会 <http://www.wakutin.or.jp/index.htm> → 「予防接種に関する Q&A 集」（医療関係者向け） → ワクチン類全般について → Q18.国有ワクチンの備蓄状況について教えてください）
- ✓ 食餌性ボツリヌス症の場合は、集団発生の有無の確認、原因究明のための疫学調査が重要です。

診断方法	<ul style="list-style-type: none"> 検査が、地方衛生研究所や国立感染症研究所以外で実施されている場合には、念のためいずれかでの確認検査を追加実施することが勧められます。 毒素型を確認し、備考欄に入力します。一般的に食餌性（食中毒）の場合 E 型、輸入食品の場合 A 型または B 型、乳児では A 型または B 型が多いとされます。
感染原因・ 感染経路	<ul style="list-style-type: none"> 食餌性ボツリヌス症の場合は、他の患者の有無、原因食品の検査実施状況を、乳児ボツリヌス症の場合は、環境、食品等の検査実施状況を確認し入力します。

33) マラリア

病型	<ul style="list-style-type: none"> 病型（原虫種）が不明の場合には、届出後に判明しているかを確認します。不明のままの場合には、血液塗抹標本の提供を医療機関に依頼し、地方衛生研究所（もしくは国立感染症研究所）で検査を実施します。
----	---

3 各論（具体的な留意事項）

感染原因・ 感染経路	(動物・蚊・昆虫等からの感染) ・ 蚊の刺咬歴（時期と場所）を確認します。
感染地域	・ 感染地域が国外であることを確認するために、潜伏期間（1-2 週間）内の海外居住歴・渡航歴の有無を確認します。感染地域の欄に入力し、その滞在期間は備考欄に入力します。 ・ 同行者の状況（感染・発病の有無）を確認し、備考欄に入力します。

34) 野兎病

診断方法	・ 診断のための検査（医師から本疾患が疑われる患者の検査に関する問い合わせがあった場合）は、国立感染症研究所に連絡します。
感染原因・ 感染経路	・ 生物兵器として使用される可能性もある病原体のため、感染原因や感染経路についての情報は重要です。野生動物や実験動物との接触の有無や、ダニやアブなどの節足動物の刺咬、汚染された水との接触などを確認します。 ・ ウサギの解剖による実験室内感染の報告がありました。 ・ ヒト-ヒト感染はありませんが、同時に複数の患者発生がないか確認します。

35) ライム病

診断方法	・ Western blot 法による抗体検出による場合には、検査の詳細（検査機関、単一かペア血清検査か、抗体の種類と抗体価）を確認し、備考欄に入力します。検査可能機関が極めて少なく、検査精度の確認が必要なためです。 ・ 診断のための検査（医師から本疾患が疑われる患者の検査に関する問い合わせがあった場合）は、地方衛生研究所（もしくは国立感染症研究所）に連絡します。
感染地域	・ 多くの報告は国内中部以北で感染したことが推定されています。 ・ 近畿以西で感染したという症例の報告は稀なため、近畿以西から届出があった場合には、診断確認のための生検皮膚組織標本の採取を届出医に依頼し、地方衛生研究所（もしくは国立感染症研究所）で検査を行うことが勧められます。

36) リッサウイルス感染症

診断方法	・ 診断のための検査（医師から本疾患が疑われる患者の検査に関する問い合わせがあった場合）は、国立感染症研究所に連絡します。
感染原因・ 感染経路	(動物・蚊・昆虫等からの感染) ・ コウモリなどとの接触歴（時期と場所）を確認します。
感染地域	・ 感染地域が国外であることを確認するために、潜伏期間（20-90 日）内の海外居住歴・渡航歴の有無を確認します。感染地域の欄に入力し、その滞在期間は備考欄に入力します。 ・ 居住・渡航先が流行地（ヨーロッパ、アフリカ、オーストラリア、中央アジア）であることを確認します。 ・ 同行者の状況（感染・発病の有無）を確認し、備考欄に入力します。

37) リフトバレー熱

診断方法	・ 診断のための検査（医師から本疾患が疑われる患者の検査に関する問い合わせがあった場合）は、国立感染症研究所に連絡します。
------	---

<p>感染原因・ 感染経路</p>	<p>（動物・蚊・昆虫等からの感染）</p> <ul style="list-style-type: none"> 蚊の刺咬歴（時期と場所）を確認します。 動物との接触歴（時期と場所）を確認します。
<p>感染地域</p>	<ul style="list-style-type: none"> 感染地域が国外であることを確認するために、潜伏期間（2-6 日）内の海外居住歴・渡航歴の有無を確認します。感染地域の欄に入力し、その滞在期間は備考欄に入力します。 居住・渡航先が流行地（アフリカ、中近東）であることを確認します。 同行者の状況（感染・発病の有無）を確認し、備考欄に入力します。

38) 類鼻疽

<p>診断方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> 診断のための検査（医師から本疾患が疑われる患者の検査に関する問い合わせがあった場合）は、地方衛生研究所（もしくは国立感染症研究所）に連絡します。
<p>感染原因・ 感染経路</p>	<ul style="list-style-type: none"> 土壌や地表水との接触歴（時期と場所）、粉じんへの曝露歴（時期と場所）を確認します。
<p>感染地域</p>	<ul style="list-style-type: none"> 感染地域が国外であることを確認するために、潜伏期間（通常 3-21 日）内の海外居住歴・渡航歴の有無を確認します。感染地域の欄に入力し、その滞在期間は備考欄に入力します。 居住・渡航先が流行地（東南アジア、オーストラリア北部）であることを確認します。 同行者の状況（感染・発病の有無）を確認し、備考欄に入力します。

39) レジオネラ症

【参考】Response に関すること

- ✓ 時に集団発生がみられているので、家族・同一施設利用者など何らかのつながりのある 2 例以上の患者発生には特に調査が必要です。
- ✓ 推定感染地域が他の自治体（温泉など）の場合、当該自治体へ速やかに情報提供します。

<p>病型</p>	<ul style="list-style-type: none"> 病型（肺炎型とポンティアック型）の分類方法は、届出基準に明記されていません。そのため IDSC により、肺炎もしくは多臓器不全のあるものを肺炎型（重症）、ないものをポンティアック型として、運用上扱うこととされています。 肺炎型で、症状の肺炎に○がない場合には、肺炎の有無を確認します。
<p>診断方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「尿中の病原体抗原の検出」となっていて、検査方法の記載がない場合、検査方法（酵素抗体法（EIA 法）かイムノクロマト法のいずれか）を確認し、入力します。 「分離・同定による病原体の検出」、「蛍光抗体法による病原体抗原の検出」において、検体名が尿の場合には、誤記入の可能性がないか確認します（尿中から菌が検出されることはありません）。 「間接蛍光抗体法による血清抗体の検出」または「マイクロプレート凝集法による血清抗体の検出」の場合には、結果の入力漏れがないか確認し、結果の内容も入力します。 「分離・同定による病原体の検出」の場合、IDSC から、衛生微生物協議会レファレンスセンターへの検体提供依頼があります。これは、尿中抗原検査の普及によって、菌分離例が少なくなり菌の詳細な分析の機会が減少しているためです。

3 各論（具体的な留意事項）

<p>感染原因・ 感染経路</p>	<ul style="list-style-type: none"> 温泉施設等が感染原因として推定または確定された場合には、可能な限りその施設名を把握し、入力します。これは、同一施設を感染源とする広域発生を探知し、拡大防止につなげるためです。 感染原因・感染経路を「その他（不明）」とする場合には、保健所での疫学調査（原因究明のための調査）を実施した上で不明なのか、実施していないための不明なのかを区別するため、備考欄に「調査したが不明」なのか「調査は実施せず」などを入力します。調査が行われた場合には、その概要を入力します。 感染原因の調査時に注目すべき点として、①温泉等の利用（周囲への波及からも重要）②給湯水、浴槽水、シャワー、加湿器等 ③空調、冷却塔等 ④ガーデニング、土木工事等の「土」の関連 ⑤車関係（エアコン、窓を開けての走行時に外の環境から感染曝露の可能性等）⑥河川、湖、プール などが挙げられます。
------------------------------	--

40) レプトスピラ症

【参考】Response に関すること

- ✓ 時に重症化し死亡することがある疾患です。
- ✓ 感染地域付近の住民に対して患者発生や感染地域について情報提供すると共に、推定感染地域が他地域からも訪問者が多い場合（観光地や川遊びで有名なポイント等）は広く医療機関へ患者発生や感染地域について情報提供します。

<p>症状</p>	<ul style="list-style-type: none"> 重症例、死亡例では基礎疾患の有無が重要な情報なので、確認し、「その他（ ）」に入力します。
<p>診断方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> 診断のための検査（医師から本疾患が疑われる患者の検査に関する問い合わせがあった場合は、地方衛生研究所（もしくは国立感染症研究所）に連絡します。 血清型の入力がない場合、後日判明していることもあるので確認し、入力します。実施されていない場合には地方衛生研究所あるいは国立感染症研究所での実施を検討します。
<p>感染原因・ 感染経路</p>	<ul style="list-style-type: none"> ペット飼育、ネズミとの接触、動物との接触、水田での作業や下水処理作業、川での活動などがないかを確認します。
<p>感染地域</p>	<ul style="list-style-type: none"> 潜伏期間（通常 3-14 日）内の海外居住歴・渡航もしくは国内旅行歴の有無を確認します。感染地域の欄に入力し、その滞在期間は備考欄に入力します。 居住・渡航（国内旅行）先が流行地〔国内（特に沖縄）・国外（特に東南アジア、オーストラリア、中南米）に分布〕であることを確認します。 同行者の状況（感染・発病の有無）を確認し、備考欄に入力します。

41) ロッキー山紅斑熱

<p>診断方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> 診断のための検査（医師から本疾患が疑われる患者の検査に関する問い合わせがあった場合は、国立感染症研究所に連絡します。
<p>感染原因・ 感染経路</p>	<p>（動物・蚊・昆虫等からの感染）</p> <ul style="list-style-type: none"> ダニ、げっ歯類との接触歴（時期と場所）を確認します。

感染地域	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染地域が国外であることを確認するために、潜伏期間（3-12日）内の海外居住歴・渡航歴の有無を確認します。感染地域の欄に入力し、その滞在期間は備考欄に入力します。 ・ 居住・渡航先が流行地（北米、特に米国の大西洋岸南部から南東部・南部・中央の州、及び中南米）であることを確認します。 ・ 同行者の状況（感染・発病の有無）を確認し、備考欄に入力します。
------	---

3.5. 五類感染症（全数報告）

1) アメーバ赤痢

病型	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病型が症状と合致しているかを確認します。両方の病型の症状（例えば下痢と肝膿瘍）があっても、「腸管及び腸管外アメーバ症」がチェックされていないことがあるので注意します。
症状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 症状がない場合は届出対象外です（無症状病原体保有者は対象外）。健康診断の検便で便潜血陽性、内視鏡検査や超音波検査で粘膜異常所見が認められていないかを確認し、これらの所見があれば、自覚症状がなくても他覚症状／所見があることになり届出対象とします。入力は、その他をチェックし、（便潜血陽性）（内視鏡検査で粘膜に異常所見あり）などと記載します。

2) ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く）

【参考】 Response に関すること

- ✓ 家族や同居者等からの感染が疑われている場合、感染拡大を防止するための対策が重要です。
- ✓ そのため、感染源となった人（患者・キャリア）、他の家族等の感染の有無、ワクチン接種状況を確認し、必要な対策を考慮します。

症状	<ul style="list-style-type: none"> ・ 症状がない場合は届出対象外です（無症状病原体保有者は対象外）。自覚症状がなくても、肝機能異常（健康診断や術前検査などで）などの他覚症状（所見）がなかったかなどを再確認します。
診断方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ HBV-DNA 陽性、HBs 抗原陽性がその他の方法として記載されている場合、それだけでは届出対象にはなりません。急性感染のみを届出対象としているためです。短期間にこれらの陽転が確認されていて、医師が今回の症状・所見が急性感染によるB型肝炎と診断した場合は、届出対象として扱います。
感染原因・ 感染経路	<p>（針等の鋭利なものの刺入による感染）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 院内感染や医療行為、鍼灸によるとされる場合には状況を確認します。 <p>（輸血、血液製剤）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 種類、投与時期（年月日）を含め状況確認します。 <p>（母子感染）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染経路として母子感染の項目がありますが、周産期の母子感染では90%以上が慢性感染となるため、ほとんどが届出対象外となります。

3 各論（具体的な留意事項）

3) 急性脳炎

（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、タニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ヘネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く）

【参考】Response に関すること

- ✓ 時に共通の原因による急性脳炎の集団発生もあり、可能な限り原因を特定することが求められます。

病型

- ・ 病原体不明の場合には、届出後に判明していないかを、2 週～1 ヶ月後を目安に確認します。
- ・ インフルエンザの場合、型・亜型を確認し入力します。型不明の場合も、型不明と入力します。

その他

- ・ 重篤な疾患であり、転帰（死亡や後遺症の有無）の情報が大切な疾患なので、転帰を確認します。死亡の場合は死亡月日の項目に、軽快や後遺症の情報があれば備考欄に入力します。
- ・ 臨床診断で急性脳炎として地方衛生研究所に検体搬入されているにもかかわらず、患者届出がされていない場合が少なくありません。検査部門との情報の連携を図り急性脳炎の届出対象であるかを確認します。

4) クリプトスポリジウム症

【参考】Response に関すること

- ✓ 水系感染では拡大の可能性がないかを確認します。
- ✓ 過去には、プールでの集団発生が報告されています。
- ✓ 動物（牛など）との接触による場合、特に牧場での体験実習、ふれあい体験、移動動物園など拡大の可能性が高い場合には、他にも感染者が発生していないか、動物との接触状況などを確認します。

診断方法

- ・ EIA 法またはイムノクロマト法によるものは、現在の届出基準にはありませんが（今後届出基準に入る予定です）、削除せずに「その他の方法」として入力します。その場合、検査実施機関を確認しておきます。また、可能な限り届出基準にある便検査（鏡検）を地方衛生研究所（もしくは国立感染症研究所）で実施します。

5) クロイツフェルト・ヤコブ病

病型
診断方法
症状

- ・ 届出基準を参照し、記載された病型に適合しているかを確認します。（届出基準が明確に示されておらず難解です。必要に応じ、厚生労働省遅発性ウイルス感染調査研究事業班「クロイツフェルト・ヤコブ病 診療マニュアル」<http://www.nanbyou.or.jp/sikkan/105.htm> を参照します。

孤発性プリオン病 古典型 CJD

- ・ 古典型とその他の振り分けが明記されていません。そのため、孤発性プリオン病の届出に必要な要件に合致するものを、古典型として運用上扱います（厚生労働省疾病対策課と IDSC による取り決め）。
- ・ 症状は、
進行性認知症は必須で、さらに①ミオクローヌス、②錐体路症状または錐体外路症状、③小脳症状または視覚異常、④無動性無言状態の①～④のうち2つ以上が必要です。
- ・ 診断の確実度は、
診断方法として、脳で異常プリオン蛋白が検出されているなどがあれば確実、脳波の所見として PSD があればほぼ確実です。それ以外は疑いです。

孤発性プリオン病 その他

- ・ 孤発性プリオン病と診断されるもののうち、進行性認知症があるが古典型に該当しない場合をその他とします。なお、進行性認知症のみの場合には、届出対象外となります。
例えば、症状は、
進行性認知症があり、さらに①ミオクローヌス、②錐体路症状または錐体外路症状、③小脳症状または視覚異常、④無動性無言状態の①～④のうち1つがあるものや、進行性認知症があり、さらに①～④のうち1つもないが、脳波で PSD があるものなど。

遺伝性プリオン病

- ・ 診断方法のプリオン蛋白遺伝子検査でコドンの異常が認められる場合はゲルストマン・ストロイスラー・シャインカー病（GSS）、家族性、家族性致死性不眠症（FFI）のいずれかのほぼ確実に該当します。
- ・ コドンの異常が確認されていなくても、家族歴があれば疑いに該当します。

6) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

症状

- ・ 届出基準の症状を満たしていないことがあるので、確認します。以下の（ア）と（イ）の両方を満たすことが必要です。
（ア）ショック症状（イ）（以下の症状のうち2つ以上：肝不全、腎不全、急性呼吸窮迫症候群、DIC、軟部組織炎（壊死性筋膜炎を含む）、全身性紅斑性発疹、痙攣・意識消失などの中枢神経症状）。

3 各論（具体的な留意事項）

診断方法	<ul style="list-style-type: none"> 分離・同定の検査材料は、届出基準では、「血液・壊死軟部組織」となっていますが、通常無菌的な部位（例：血液、髄液、胸水、腹水、生検組織、手術創）も対象として扱っています。 咽頭、喀痰、羊水での分離は、常在菌の可能性が否定できないことなどから対象外となります。 迅速診断キットによる診断の場合、検体が血液（血清）など通常無菌的な部位（上述）であれば対象として扱います。 新生児のB群溶血性レンサ球菌（GBS）感染症が、本疾患の届出基準に合致することがありますが、GBSの産道感染による新生児敗血症等は、本疾患とは異なる病態の疾患と解釈されます。そのため本疾患の届出対象外として扱います。
その他	<ul style="list-style-type: none"> IDSC から、衛生微生物協議会溶血性レンサ球菌レファレンスシステムに基づき、各ブロックのセンターへの菌株の提供依頼があります。本症の病原因子の一つと考えられているM蛋白質の型別試験や、耐性菌出現監視のための薬剤感受性試験が実施されます。※結果は年間で1回IASRのホームページに掲載されます。

7) 後天性免疫不全症候群

【参考】Response に関すること

- ✓ 無症候性キャリア（無症状病原体保有者）の診断契機を必要に応じて確認します。これは地域でのHIV/性感染症対策を検討するうえで有用な情報です。確認する項目の例としては、自発検査、他の性感染症が契機となった検査、患者のパートナー検査、術前検査などが挙げられます。
- ✓ 母子感染例については、IDSC から危険因子に関する追加調査の依頼があるので、できる限り協力します。これは、届出項目だけでは本疾患の危険因子を特定できないためです。

類型	<ul style="list-style-type: none"> 類型が「患者（確定例）」の病型は「AIDS」あるいは「その他」、「無症状病原体保有者」の病型は「無症候性キャリア」です。
病型	<ul style="list-style-type: none"> 病型が「その他」は、指標疾患以外の症状や、HIV/AIDSに直接関係がなくても何らかの症状の記載がある場合です。この場合、診断時の症状は有として、症状の内容を入力します。
診断方法	<ul style="list-style-type: none"> 抗HIV抗体スクリーニング検査のみでは届出対象外です。届出基準では抗HIV抗体スクリーニング検査「かつ」確認検査または病原検査とされていますが、確認検査または病原検査があれば、抗HIV抗体スクリーニング検査は不要です。
感染原因・感染経路	<ul style="list-style-type: none"> 性行為感染で異性間か同性間か不明の場合の入力は、その他をチェックし、性行為感染（異性間か同性間か不明）などと入力します。 性行為感染が異性間と同性間の両方の場合は、両方をチェックします。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 無症候性キャリア（無症状病原体保有者）の診断契機を確認した場合は備考欄に入力します。

8) ジアルジア症

- | | |
|----|---|
| 症状 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 症状がない場合は届出対象外です（無症状病原体保有者は対象外）。健康診断などの検便で発見された場合には、発見時（検便実施）以前に関連症状がなかったのかを念のため確認します。 |
|----|---|

9) 髄膜炎菌性髄膜炎

【参考】 Response に関すること

- ✓ 時に集団発生や院内感染を引き起こすことがあります。
- ✓ 感染源となった人（患者・キャリア）、他の家族等の感染の有無、ワクチン接種状況を確認し、必要な対策を考慮します。

- | | |
|---------------|--|
| 診断方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 血清群の記載がない場合には、できるだけ菌株の提供を依頼し、地方衛生研究所（もしくは国立感染症研究所）での検査実施が勧められます。我が国で流行している血清群を把握するのは、ワクチン政策のためにも重要な情報です。 |
| 感染原因・
感染経路 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 飛沫感染、接触感染では、感染源となった人、他の家族等への感染の可能性がないか、あれば予防内服などされているかを確認し、必要に応じて備考欄も使って入力します。 |
| 感染地域 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 潜伏期間（2-4日）内の海外居住歴・渡航もしくは国内旅行歴を確認し、居住・渡航もしくは国内旅行先と期間を備考欄に入力します。 ・ ワクチン接種歴（接種回数と時期）を確認し、備考欄に入力します。 ・ 同行者の状況（感染・発病の有無）を確認し、備考欄に入力します。 |

10) 先天性風しん症候群

- | | |
|-----------------------|---|
| 病型
症状 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 病型と症状が合致しているかを確認します。 |
| 診断方法 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 尿中へのウイルス排泄が約6カ月持続することもあり、感染予防対策の意味でも地方衛生研究所（もしくは国立感染症研究所）でウイルス分離を試みます。 |
| 感染原因・
感染経路
感染地域 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 母親の年齢、必要に応じて国籍（母親の予防接種機会がどのようなものだったかの目安になる）を確認します。 ・ 患児が第何子なのか確認し、以前の出産歴があれば、その時の母親の風疹抗体検査データを確認します。 ・ 母親の発症日、母親の風疹患者との接触歴（身近に患者がいなかったか）、母親の風疹罹患時期の感染地域の流行状況などを確認します。 ・ 母親が発症者の場合、可能な範囲で届出状況の確認をします。 |
| その他 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ウイルスが分離・同定されている場合、国立感染症研究所へのウイルス提供について IDSC から依頼があるので、できるだけ協力します。 |